

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/成人・老年看護学】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
成人老年看護学実習Ⅲ (リハビリテーション看護)		必修	2	3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
佐野 宏一朗 他	414	k.sano	実習終了後 16:00~17:00		
授業の目的・概要	この実習では、リハビリテーションを必要とする対象者や家族の健康問題と個々の生活背景などを総合的に把握し、対象の個性を踏まえて看護を実践する能力を習得する。様々な疾患・障害から生じる生活機能障害に対して看護過程を展開し、対象の個性に合わせて生活の再構築を目指し、QOLの維持・向上を支援する看護を実践する。またリハビリテーション医療を支える様々な専門職の連携や、地域と病院の連携について学習・検討を行い、実践を通してチームアプローチを学ぶ。				
学習上の助言	成人・老年看護援助論Ⅲで学習した内容をよく復習した上で実習に臨むこと。実習を行う上で生じた疑問に対して主体的に学習するとともに、積極的に質問を行い、疑問点を解決できるよう努めること。実習の際は、挨拶や言葉使いなど、倫理的な態度に留意して実習に臨むこと。				
教科書	ナーシング・グラフィカ成人看護学(5):リハビリテーション看護(第5版)/編:石川ふみよ/メディカ出版/2024				
参考書	国際生活機能分類 ICF の理解と活用 人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか(第2版)/著:上田敏/萌文社/2005				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	リハビリテーションを必要とする対象者の全体像を、ICF を用い理解することが出来る。	NS(1)~(5)			
②	リハビリテーションを必要とする対象者の健康上の問題および生活上の問題を理解できる。	NS(1)~(5)			
③	リハビリテーションに関わる専門職の役割と多職種連携について、実践を通し理解することが出来る。	NS(1)~(5)			
④	リハビリテーションチームの中での看護師の役割について、実践を通して理解することが出来る。	NS(1)~(5)			
⑤	生活の再構築を目指し、対象者の個性に応じた看護計画を立案し、実施評価できる。	NS(1)~(5)			
⑥	自己の課題を明確にするとともに、積極的に実習に取り組むことが出来る。	NS(1)~(5)			
授 業 計 画					
1.実習の時期と期間 3年次後期 各グループ約6名で各2週間実施する。					
2.実習場所 富士吉田市立病院、石和温泉病院、他					
3.オリエンテーション 実習直前に具体的な実習内容、留意事項などについてオリエンテーションを行う。					
4. 具体的な実習方法 1) 実習は主に病院においてリハビリテーションを必要とする対象者に対し、事例の情報収集、対象理解を行い、看護過程を展開する。また、対象者に関わる様々な専門職が行っている治療・援助について理解を深め、チームの中における看護師の役割と看護の実践について考察し、看護実践を行う。 2) 実習のスケジュール					
	月	火	水	木	金
1 週目	病院実習	病院実習	病院実習	学内実習	病院実習
2 週目	病院実習	病院実習	病院実習	病院実習	学内実習
5.単位の認定及び評価 出席状況、実習記録、レポート等による総合評価					
6.実習記録および課題レポートの提出 実習要項参照を参照すること。					

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/成人・老年看護学】

学習課題・学習時間 (時間)							
成人老年看護援助論Ⅲで学習した内容全般を実習前に復習すること。実習中の疑問や対象者への援助に必要な知識・技術は各自で自己学習すると共に、教員および実習指導者に質問し疑問を解決すること。 必要時間: 30 時間							
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	80	10	0	10	100
総合力指標	知識・技術力	0	20	0	0	0	20
	思考・推論・創造する力	0	30	0	0	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	2	0	2	4
	発表・表現伝達する力	0	10	2	0	0	12
	コミュニケーション力	0	10	2	0	0	12
	取組みの姿勢・意欲	0	5	2	0	5	12
問題を発見・解決する力	0	5	2	0	3	10	
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	評価は、日々の実習記録、看護過程の展開、課題レポート等を総合的に評価する。				口頭および記録物へのコメントで、看護記録や看護過程へのフィードバックを行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
成果発表	①	✓	カンファレンスにおいて、受け持ちの対象者に対する看護過程の発表や、実習上の課題に対する検討状況、学生同士の意見交換の姿勢等を総合的に評価する。				カンファレンス時に口頭でフィードバックする。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	実習の姿勢を総合的に評価する。				実習中に、口頭および記録物へのコメントでフィードバックする。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
備 考							
他 担 当 教 員	吉岡睦世、堀口まり子、山崎さやか						
教員の実務経験	科目担当者は病院の看護師 15 年の実務経験を有する。他の教員も看護師として豊富な臨床経験を有する。						
実践的授業の内容	実務経験のある教員の指導のもと、リハビリテーションを必要とする対象者への看護援助の実践方法を学ぶ。						
そ の 他	自己の健康管理に十分注意し実習に臨むこと。教員が提示する記録物の提出期限を順守すること。問題がある場合は実習の参加を認めない。体調が不良の時には、実習指導教員に相談するなどの適切な対応をすること。今後の社会情勢によって再度シラバスの変更がある可能性がある。						